

文化政策の評価について

吉本光宏 | ニッセイ基礎研究所

1. 評価の目的

- 「評価(の結果を出すこと)」自体が目的化する危険性
- 政策・施策、プログラムの改善
 - PDCA サイクルの確立
 - 文化政策の基本的な方針(5年スパンでの PDCA)
- アカウンタビリティ(説明責任)
 - 国民、政府内
 - 文化芸術(文化政策)が日本にとって、(国際)社会にとってなぜ必要か(コンセンサスの形成)

2. 政策と評価の体系

- 戦略マネジメント方式、バランススコアカード方式
- ミッション、戦略目標、戦略(施策・事業)、指標(評価基準)
- 政策と評価の体系は表裏一体(指標をあらかじめ決めておくことの重要性)

3. 評価の手法

- 政府の文化に対する投資の成果をいかに測定するか。芸術そのものの評価ではなく、政策、プログラムの有効性の評価。
- 数値目標と数値評価: 統計データ、事業データ(入場者数、稼働率、事業収支 etc.)に基づいたアウトプット→課題: 文化に関する基礎的な統計データの欠如
Not everything that counts can be measured. Not everything that can be measured counts.
重要なものすべてが計測できるわけではないし、計測できるものすべてが重要なものではない。
- エピソード(エビデンス)評価: 各種調査(アンケート調査、グループインタビュー調査等)、観察によるアウトカム→課題: 調査に関するコスト
- 評価のタイミング(事前、期中、事後)
- 評価者(自己評価、外部評価)、評価体系・指標の構築時からの参画

4. 評価の視点

- 幅広い評価視点の導入(他の政策分野へのインパクト)
- 文化芸術の振興、文化財の保存・活用
 - +
- 教育、福祉・医療、社会的効果、経済的効果、地域再生など
- 文化芸術が他分野の政策に役立つ「ツール」としてのみとらえられる(instrumentalization)危険性

参考1: (財)地域創造、公立ホール・公立劇場の評価指針、2007.3

参考2: 英国アーツカウンシル、Annual Review 2009

参考3: 英国アーツカウンシル、芸術助成に関する評価、2005.3

参考4: シンガポール、「ルネッサンス・シティ・プラン」と文化統計

- ルネッサンス・シティ・プラン(2000年)
- ルネッサンス・シティ・プランⅡ(2005年)
- ルネッサンス・シティ・プランⅢ(2008年)